

平成 29 年度 神奈川県立小田原養護学校 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4 年間の目標 (平成 28 年度策定)	1 年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月26日実施)	総合評価 (3月14日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	自立と社会参加をめざし、各教育部門における系統性のある教育課程の編成や組織的な授業改善に取り組む。	①児童・生徒のキャリア発達に即した系統性のある教育課程の編成に向け、組織的な授業改善を継続し児童・生徒の自立を促進する指導の工夫を行う。 ②教材・教具や学校図書及び指導案の情報の共有と有効な活用を促すシステムを構築する。	①小グループでの実践研究とプロジェクトチームによる課題研究を推進し、指導体制や授業のあり方、適切な評価等、日々の実践を見直し、授業改善に取り組む。 ②教材・教具・学校図書及び指導案の情報共有と活用に向け、サーバーの活用と、手に取れる目に触れる形を検討し実践する。	①小グループでの実践研究とプロジェクトチームによる課題研究を通して授業改善ができたか。 ②教材・教具や学校図書及び指導案の情報共有と活用に向け、サーバーの活用と、手に取れる目に触れる形が構築できたか。	①「つながる授業・つながる支援」を全校テーマにして全校で約30テーマの実践研究、授業アイデアリーフレットの作成や次期学習指導要領についての研究に取組み、授業改善を推進することができた。 ②情報共有のためのサーバーの整理、指導案の保管ファイルの整備など、情報共有しやすい環境を整えることができつつある。図書コーナーを設置することで児童・生徒が日常的に本に触れる環境ができた。	①今年度実施した実践研究は、日常の研究の中で授業の改善に取組む意識の醸成につながった。今後も研究を継続し、系統性のある教育課程の編成を継続する必要がある。 ②情報共有のための環境整備が進められたが、学部によって温度差が見られるので、他学部の良い取組みを広げていく必要がある。今年度研究で取組んだアイデアリーフレット等を今後も作成し指導の向上をめざす。	(保護者アンケート肯定的回答率) ① 小学部から高等部までのつながりを大切にしていた取組みをしている80%。 ② 教材・教具等、教員間で情報を共有・活用して授業実践に取り組んでいる。81%。 (中・高校生アンケート) ・ 学校生活や授業の設問では、楽しいが93%、好きな授業があると90%が回答。 (学校評議員) ・ 研究成果が授業に反映されている。 ・ 図書コーナーがよい。さらに充実を図ってほしい。	①日常の実践研究を通して、授業改善につなげた。新学習指導要領に基づく授業の実践に向け、研究を推進し、より具体的に授業改善に反映する必要がある。 ②情報共有とその活用に向け、校内PCサーバーの整理、一覧表の作成などデータが見える形となってきたが、より活用する取組みが必要である。図書コーナーが多く活用されているが、蔵書の内容や更新を充実する必要がある。	①今年度の実践研究を継続するとともに、新学習指導要領に基づく授業の在り方について、教科を具体的に絞って、校内の研究を実施する。 ②校内の良い取組みを学部間で共有し、教材・教具等に係る情報の活用を推進する。外部図書館の貸し出し等を活用し、図書コーナーの蔵書の充実を図る。
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	児童・生徒一人ひとりの実態やニーズに応じた指導・支援を充実させる。	①校内における専門職・教育相談担当等との相談システムの構築と活用により校内支援の充実を図る。 ②新書式による個別教育計画の運用を見直し、個別教育計画を活用した適切な引き継ぎに基づく指導・支援を継続する。	①地域連携係に学部担当を設け、専門職・教育相談担当等とすぐにつながる相談システムを構築し、システムを活用による校内支援の充実を図る。 ②新書式の書式上の課題をさらに整理・検討・修正するとともに、運用について見直し、個別教育計画を活用した適切な引き継ぎに基づく指導・支援を継続する。	①校内相談システムの構築により、専門職・教育相談担当等との校内相談回数が増加したか。また、相談後に支援の質の向上につながったか。 ②新書式の個別教育計画の様式や運用の見直し・改善ができたか。また個別教育計画を活用した適切な引き継ぎに基づく指導・支援ができたか。	①校内相談窓口の学部配置、相談カードの簡略化、専門職等の授業参加などにより、日常の中での相談機会が増え、相談後の支援の質の向上につながった。 ②新書式については、保護者からの評価はおおむね良好だが、前期の課題整理を行い、改善に取り組んだ。引継ぎについては、新年度の個別教育計画を保護者とともに確認し、教員間でも情報を共有し指導・支援を行った。	①今後も相談システムを継続し相談終了後の情報を担任と共有するとともに、専門職が有する教材なども活用し指導・支援の向上を継続する必要がある。 ②学習指導要領に基づく変更点などを踏まえ、より良い書式に改善する必要がある。引継ぎの手続きなどを改めて確認・整理し、より有効な引継ぎを進め、指導と支援に活用する必要がある。	(保護者アンケート肯定的回答率) ① 学校は、必要に応じて専門職等と連携して、児童・生徒のニーズに応じた支援に取り組んでいる。81%。 ② 新書式の個別教育計画は、わかりやすい内容となっている86%。 (中・高校生アンケート) ・ 先生はあなたの悩みを聞いてくれていると95%が回答しました。 (学校評議員) ・ 確実な引継ぎが大切である。 ・ 強みに視点を当てた指導が有効である。	①相談システムの変更により、校内相談が34%増加した。保護者の相談は11件増え、システムの変更は効果があったが、サーバーの活用などはあまり浸透しなかった。校内の支援は進んでいるが、さらにより良い支援の継続を図る必要がある。 ②個別教育計画の新書式の課題の整理・改善が進んだが、特別な教科道徳等、新学習指導要領改訂に伴う修正が必要である。引継ぎに係るマニュアルをまとめ教職員で共有した。	①相談システムの活用しやすい改善を検討するとともに、専門職等と連携した授業を展開し、専門的なスキルの伝達や教材の活用などにより、支援の質を向上する。 ②新学習指導要領の改訂に伴う書式の改善を進めるとともに、保護者の意見も取り入れ、さらに検証・改善を重ね、教育活動に活用する。
3 進路指導・支援	将来の一人ひとりの生活の充実をめざし、卒業後の進路を視野に入れ、障害の特性や発達段階に応じた進路指導・支援を行う。	①発達段階に応じた生活スキルや社会的スキルの獲得に重点を置いた学習内容に取組み、卒業後の生活を見据えた進路指導・支援の充実を図る。 ②福祉制度や地域の情報を計画的に保護者や教職員に提供し、進路指導・支援に係る理解啓発を	①キャリア教育の「小田原養護学校の児童・生徒のめざす将来像」の系統性を示す表を活用し児童・生徒の実態に応じた生活スキルや社会的スキルの獲得に重点を置いた指導を継続する。特に高等部は進路指導担当と連携した授業や清掃技能検定に計画的に取り組む。 ②保護者に向け計画的な進路説明会・福祉サービスなど	①キャリア教育の「小田原養護学校の児童・生徒のめざす将来像」の系統性を示す表を活用し児童・生徒の実態に応じた生活スキルや社会的スキルの獲得に重点を置いた指導ができたか。また、高等部は進路指導担当と連携した授業や清掃技能検定に計画的に取り組めたか。 ②保護者ニーズを把握し、内容を精選	①キャリア教育の視点を盛り込んだ年間指導計画を作成し、高等部担当と授業を行うなど、生活スキルや社会的スキルの獲得に重点を置いた。清掃技能検定は、前期14名・後期10名が受検し昨年より受検者数が増加した。 ②保護者のニーズを踏まえ、各部門・学部対象の進路説明会や研修等を行った。説明会や見学会などに参加できなかった保護者への情報の提供が不十分であっ	①人間関係のより良い形成に向け、卒業後の社会参加を見据え、互いに尊重し合い思いやりを持ったコミュニケーションや行動ができるように指導を継続する必要がある。 ②研修会・説明会は保護者のニーズを踏まえ今後も継続する。説明会や見学会などに参加できなかった保護者への情報の提供について、分教室・本校それぞれで検討し、態勢を整える。連携部便りについては、今後も継続する	(保護者アンケート肯定的回答率) ① 生活スキルや社会的スキルの獲得に向け、人や施設・場面を効果的に活用した校外学習や日常の授業等に取組んでいる87%。 ② 保護者対象の進路先の見学会や福祉制度説明会等は参考になっている85%。 (中・高校生アンケート) ・ 職業、作業や進路の授業は役に立つ93%、授業で卒業後の進路先や生活がわかると84%が回答。 (学校評議員)	①社会参加に向けた生活スキルや社会スキルの獲得に重点を置いているが、教員間での理解が不十分な点も見られる。清掃検定も含め、高等部各学年における指導内容や系統性について再確認と共通理解が必要である。 ②保護者のニーズを踏まえた研修等が実施できた。参加できなかった保護者への情報提供の対応策を検討する必要がある。今後もニーズを把握し、連携部便り等を通じて、福祉制度	①進路の視点からキャリア教育の整理・検討を進める。清掃技能検定に係る校内組織の在り方を整理する。 ②参加できなかった保護者への情報提供の対応策を検討し、改善を図る。福祉制度の理解や障害理解について内容を精選し、説明会や連携部便りを活用して必要な情報が提供できるよう継続する。

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月26日実施)	総合評価(3月14日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
		図る。		の情報の提供を行うとともに連携部便りを保護者及び教職員向けに発行する。	して計画的に説明会ができたか。また、連携部便りは、月1回程度保護者と教職員向けに発行し計画的な情報の提供ができたか。	た。連携部便りは、事業所の情報等を紹介しながら、月1回計画的な情報の提供ができた。	が、情報を収集する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 社会参加に向けた清掃検定など成果が見られる。 説明会の資料をホームページ等にアップして情報提供してもよい。 	の理解や障害理解について普及・啓発をする必要がある。	
4	地域等との協働	他者を尊重し、多様性を認め合う共生社会の実現に向け、障害のある児童・生徒の理解啓発を図るため、地域への発信や、地域と連携した教育活動を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> ①インクルーシブ教育実践推進校・クリエイティブスクールとの連携・支援を推進する。 ②地域に向けた研修の開催や、地域と連携した教育活動に取組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ①インクルーシブ教育実践推進校、クリエイティブスクール両校の実践を通じた継続的な支援に取組む。 ②地域に向けた研修会等を実施する。学校ホームページは今年度同様に月2回更新する。併せてスムーズに更新ができるよう一覧表を作成し計画的な運営を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①インクルーシブ教育実践推進校・クリエイティブスクールとの連携・支援が計画的に進められたか。 ②地域に向けた研修会が実施できたか。最新の情報の掲載がスムーズにできたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①今年度の連携・支援の在り方について両校と確認して進め、進路に係る情報交換や個々のケースについて連携して支援した。 ②夏の研修会実施後の参加者アンケート結果はニーズに応じた内容であったと評価を得た。高等部の製品の販売や分教室の耕作放棄みかん畑作業やなど、地域への貢献が図られた。ホームページは月2回の更新を計画どおりに行い最新の情報を掲載した。 	<ul style="list-style-type: none"> ①各校の支援ニーズに合わせて支援を行う形式で、担当間での情報交換を行った。今後も情報を共有しつつ、ニーズに応じた支援を継続する必要がある。 ②引き続き地域のニーズを踏まえた研修会の計画的な開催を進める。ホームページについては、デザインやメニュー構造などを見直し、改訂を進める。 	<p>(保護者アンケート肯定的回答率)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 学校は、地域の「支援教育」の充実・推進のために、役割を果たしている69%。地域との交流学習は計画的に行われている70%。 ② 地域に向けた研修会や活動は、児童・生徒の理解啓発につながっている65%。学校の教育活動を、ホームページや連携部日より等で保護者や地域の方にわかりやすく伝えている82%。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学が研修会などの支援が可能である。 特別支援に係る情報の提供がされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①当該校の要請ニーズに応じて情報交換や個別の相談に対応した。文化祭等の行事を通じた交流が相互理解の良い機会となっているので今後も継続的な連携が必要である。また、他の高等学校との連携をすすめ、地域における障害児者の理解推進を図る必要がある。 ②引き続き地域のニーズを踏まえた研修会を開催し、障害のある児童・生徒の理解啓発を継続する必要がある。ホームページの改訂が年度内に完成したので、運用について今後検証する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ①センター的機能を活用し、地域の高等学校との連携を進め、障害に係る理解啓発を図る。 ②地域に向けた研修会は、今後も計画的に実施する。リニューアルしたホームページの検証を進め、確実な更新と必要な情報の掲載に取り組む。
5	学校管理 学校運営	児童・生徒の安全と健康を守り、良好な教育環境の整備を推進する。不祥事防止に努め、良質の同僚性を構築し、教職員の人格的資質・専門性の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ①児童・生徒の安全と健康を守り、良好な教育環境の整備を推進する。 ②おだようメールの活用を幅広く教育活動内容の情報を発信し、児童・生徒の登録増をめざす。必要に応じて各種マニュアルを改善する。不祥事防止に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ①感染症やアレルギー等への対応マニュアルの策定、高度な医療ケア等への対応など、関係部署との連携や外部機関との専門的な情報共有のもと安全な運営を実施する。スクールバス運行に係るバスポイントやコースの見直しを進める。 ②おだようメールの活用を周知するとともに情報発信の項目を増やし登録数増をめざす。毎月不祥事防止チェックシートによる個人点検を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①保健室等との情報交換を密に行い、学部と連携しながら各指導等を徹底できたか。主治医、担当医と連絡を密に取り合い、適切に医療ケア等の対応ができたか。スクールバス運行にかかる適切な見直しが見直しができたか。 ②おだようメールによる情報発信の項目を増やし、登録数の増につながったか。毎月チェックシートでの点検を行い、不祥事を防止できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①毎日の健康観察を欠かさずに行い、担任・養護教諭等で共有し安全な指導を実践した。医療ケア等は、看護師、主治医や担当医等と連携し、人工呼吸器等の研修やマニュアルの作成・訓練を実施し安全に運営した。スクールバス運行のコース編成や将来を見据えたバスポイントの調査、高A乗車希望生徒の調査を行い乗車条件を整理した。 ②おだようメールの運用を見直し、避難訓練情報、ホームページの更新情報等のメール配信を行い、10%登録数が増えた。不祥事防止チェックシートによる個人点検を実施し、その都度課題改善に努め、不祥事はなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ①第三種感染症についての校内対応を再度整理する必要がある。人工呼吸器等高度な知識を要する医療的ケアの対応について、訓練等での点検を継続し、今後も安全な医療ケア等の実施を継続する必要がある。 ②メールの配信内容の見直しに伴い、おだようメールの運用規則を改定するとともに、細則を新たに作成し教職員に周知する必要がある。今後も不祥事防止に取組み信頼される学校づくりに努める。業務マニュアルの改善を継続的に進めているが、今後も継続する必要がある。 	<p>(保護者アンケート肯定的回答率)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 保健室や栄養職員等と情報交換を密に行い、感染症やアレルギー等の未然防止に取組んでいる81%。 ② 学校は、防災教育に取り組んでいる86%。会計報告や個人情報収集時に適切に行っている90%。職員は、児童・生徒や保護者に対して、コミュニケーションを大切にしながら接している89%。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 意見・要望：高Aの手帳Aのスクールバス通学が可能になればよいと思う。入学してから親が迎えに行く訓練がないので心配。看護師の人数補充が不足していると感じる。等 安心安全な医療ケア等の継続が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ①第三種感染症への対応として、保健委員会にて学校医の研修を受け、対応の整理を行い共通理解が図られた。医療ケア等については、安全に実施されているが、今後も関係機関と連携し、安全な実施が必要である。スクールバスの運行について、今後も年度ごとに見直し、適切な運行に努める必要がある。 ②小田養メールの有効な活用を進めることができてきているが、さらに登録数が10%増えるように進める必要がある。今後も毎月のチェックシートによる点検を実施し、教職員全員で不祥事防止に努める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ①今後も日常的な健康観察を継続し、状態の変化等を関係者で情報共有し、アレルギーや感染症にたいして、マニュアルをもとに対応する。医療ケア等については、今後も高度な医療的ケア対象者をはじめ、すべてに対して安全な対応ができるよう研修を継続する。 ②小田養メール登録者数は、現在8割程度であるが、当面1割増を目指して取り組む。業務マニュアルの改善は、必要に応じて随時実施する。毎月不祥事防止チェックシートによる個人点検を継続する。